

「きょういく・イッカン」 2号 発行：清水町小中一貫教育推進協議会

小中一貫教育サポート事業「カリキュラム編成全道研修会」の講演を視聴して  
6月30日（水）、教育委員会、各学校で、Zoomによる遠隔研修に参加し、講演①  
②を視聴しました。その概要は、以下のとおりです。

講演①「京都市の小中一貫教育」

～義務教育9年間の「学び」と「育ち」をつなぐ取組～

京都市教育委員会首席指導主事 吉川泰浩 氏

○京都市の一貫教育について

- ・考え方～中一ギャップの解消や心身発達の早期化への対応など
- ・児童生徒の個々の能力を十分に引き出す
- ・全教職員が小中9年間の学びと育ちに責任を持つ
- ・5つの視点、5つの実践 等

○京都市向島秀蓮小中学校の取組

- ・目標の明確化、6つの資質・能力の設定
- ・9年間教科部会～短時間・少人数の話し合い、授業づくりスタンダード ～ 秀蓮  
授業づくり3ステップ、新資質・能力指導案 等

○9年間を見通した指導計画の日常的な活用の実際

- ・9年間を見据えて取り組む、他学年とのコラボ学習、指導計画の日常的な活用 等

○指導計画の改善を通じて教員間の共通理解を図る取組の実際

- ・1年生担当から9年生担当まで全体で教科部会、5年生以上を教科担任制、タテと  
ヨコのつながりを意図的に創出 等

○指導計画の日常的な活用による児童生徒や教職員の変容

- ・児童生徒の変容～問題行動の減少、リーダーとしての活用の場が増え、年少者へ優  
しく接する姿の拡大、子どもが「〇年生で何の学習をする」という見通しの意識 等
- ・教員の変容～充実感の高揚、使命感と自己有用感の向上、意識改革の進展、小中の  
学習内容の把握、カリキュラムマネジメントの高揚 等

<小中一貫教育推進のポイント>

- ・年間指導計画のスタンダードが大事～毎年、改善（変容）
- ・小中学校教職員の交流～教科部会、研修会の実施
- ・「タテ持ちシステム」～一人の先生が複数学年を担当
- ・指導案の中に、「付けたい力」を明記して実践→ 3つの資質・能力
- ・小中の学校行事の見直し 等

## 講演②「資質・能力の育成を目指す小中一貫教育」

～カリキュラムマップに基づいた授業づくりを通して～

広島県呉市立広南中学校教諭 佐伯育伸 氏

### ○広南学園における小中一貫教育

- ・学力を伸ばす教育課程への改善
- ・未来を創る7つの力 等

### ○資質・能力の育成を目指すカリキュラム・マネジメント

- ・9年間の学びを貫くカリキュラムマップの作製
- ・教員間の共通理解 等

### ○挑戦問題から始まる「貫きカリキュラム」

- ・実践事例～理科（6年→7年）、総合、国語（6年→7年）、単元開発・授業改善（2ステップカンファレンス）等

### ○今後の方向性

- ・持続可能な教育課程にするために、学園の研究成果を積み上げ、「つなぎ」「磨く」
- ・Society 5.0を見据えた取組

#### <小中一貫教育推進のポイント>

- ・カリキュラム・マネジメントの実践による子どもの変容から、取組の価値を実感すること
- ・ノウハウを蓄積すること
- ・実践+1アクション改善し、磨きをかけること
- ・自ら考え他者と協働し、新たな価値を生み出す教育活動を推進すること

#### 聴講者の声…清水町教育委員会学校教育係主事 井上 雄斗

小中一貫教育は、9年間の指導計画を立てることで、今ある「十勝清水学」が系統的・継続的な教育ができると感じました。9年間の長いスパーンで子ども一人一人の成長を見取るには、小・中学校間の教員だけでなく、教育委員会や地域との協働連携体制を強固にしていかなければならないと思いました。

各校では校長、教頭、教員 10名、町文化センターでは教育委員会職員等 8名、計18名の皆様に、Zoomによる遠隔研修に参加いただきありがとうございました。

先進校での成果と課題や「小中一貫教育」の推進のポイントなど取組の一端を知ることができました。改めて、目標や目指す姿を明確化させることや子どもの実態に対応した手立て、教員間の共通理解を図ることが重要であることを理解することができました。

清水町小中一貫教育（清水小・中学校、御影小・中学校）の重点や15歳の目指す姿を教員間で共通理解を図り、連携事業の継続・充実させ、+1の取組を重ねることで一貫教育の実現をめざしていきたいと思っておりますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。